

○研修の目標

「生徒指導」と「生徒支援」の違い？

「生徒支援探究研修」の担当になった際、まず最初に感じたことは、「そもそも生徒支援とは何だろう？」、「それが何か分からないのに研修ができるのか？」ということでした。また、「特定課題探究研修という新しくスタートした研修を自分が担当できるのか？」など、考えれば考えるほど当日までの道筋のイメージができなくなり、新年度早々暗い気持ちになったことをよく覚えています。

そんな、何から始めていいのか分からない状態の中で最初に行ったのは、NITS 職員の間で生徒支援とは何かを考えることでした。その中で、「生徒指導」との違いや、教師だからこそ行える「生徒支援」とはどんなことか等、様々な意見が出されました。

研修をデザインする際には研修目標を決めるのですが、最初に立てた研修目標は、「生徒支援」と「生徒指導」の違いに気付くことを主眼としていました。

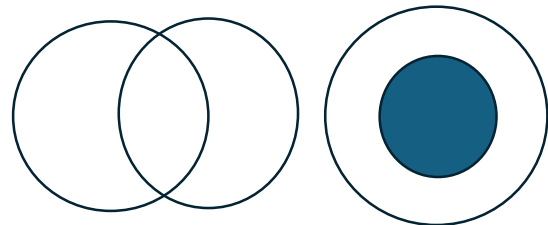
「生徒支援」の定義がはっきりしていない中で、既に定義のある「生徒指導」との違いに気付くことが重要だと考えていたからです。

このとき、自分が持っていたイメージは、上から教えるといったイメージが「生徒指導」、寄り添うのが「生徒支援」、でも全く別ではなく重なる部分もあるというあいまいなものでした。

「生徒支援」の定義がはっきりしない中で「生徒指導」との違いに気付く研修をつくるのが果たしてできるのかと思っていたところ、「一度、坂上さん自身が、「生徒指導」と「生徒支援」の関係についてベン図に書いて考えてみては？他の職員にも書いてもらって比べてみるといいかもしれない」という示唆をもらいました。

私が書いたのは左側の図です。

他の職員の一人は、右側の図を書いてくれました。「生徒支援」の中に「生徒指導」も含む、もしくは、「生徒指導」の中に「生徒支援」も含むという図です。



私は、「生徒指導」と「生徒支援」は、重なるところはあっても、別のものだという認識を持っていたので、このような考え方があることに衝撃を受けました。本当に左側の図しか思いつかなかったのです。そしてこの右側の図を見

て「腹に落ちる」感覚を味わいました。

この後、もう一人の研修担当者とし合いをし、研修目標を、「生徒指導」と「生徒支援」の違いに気付くということではなく、参加者それぞれの考えから「生徒指導」と「生徒支援」の違いをベン図で書いてみることを切り口に、参加者が自身の実践を振り返ることを通じて、今後、どのように子供達と関わっていくとよいか考えることを中心に主題としました。ベン図を見て「生徒指導」と「生徒支援」を分けて考えていない人もいるであろう中で違いを考えることよりも振り返った後で今後のことを考えるきっかけの研修にしたいと考えたからです。

研修中、参加者の皆さんの多くは、右のベン図を書いていました。

頭で考えるだけではなく、図にしたり手を動かしたりすることで気付きを得られるという経験は、私自身にとっても、良い学びになりました。

○参加者の皆さんの反応を見て

本研修の目的には、児童生徒の「エージェンシー（社会に主体的にかかわり、変革していくような力）」をどのように支援できるかといったことを記載しています。研修中直接触れなかったこともあり、「エージェンシー」に結び付けて考えるところまで広げられなかったことは、一つの反省点です。

研修中は、当日の参加者の反応を見て時間配分を変えたり、内容を一部変えて行ったりと、状況に応じて研修の展開を変えたことで、生きた研修をしている実感がありました。ただ、正直、自分のスキルが追いついておらず、変えた際に進行で非常に慌てたことを覚えています（当日の参加者の反応はオンラインですが、はっきり分かりました。冷えていく感じとかあったまっていくな感じとか温度感も伝わりました）

こちらが色々考えて提示した時間よりも、参加者間で対話している時間の方が反応が良かった等、当日になってみないと分からないこともありました。

私自身も、参加者の皆さんとともに、話を聞いたり、分からないことを一緒に考えたりすることができた研修だったと思います。